

HS 87

STIHL



2 - 20 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	本機の使い方.....	7
4	燃料.....	8
5	給油.....	9
6	エンジンの始動と停止.....	11
7	エアフィルター掃除.....	12
8	キャブレターの調整.....	13
9	スパークプラグ.....	14
10	ギヤーボックスの注油.....	15
11	機械の保管.....	15
12	目立ての注意事項.....	15
13	整備表.....	16
14	磨耗の低減と損傷の回避.....	17
15	主要構成部品.....	18
16	技術仕様.....	18
17	整備と修理.....	19
18	廃棄.....	19
19	EC 適合証明書.....	19
20	UKCA 適合宣言.....	20
21	アドレス.....	20

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク: ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



手動燃料ポンプの操作



ギヤグリス用注入口

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

油煙類白煙使用
減ばりサイクル可能です。

2 使用上の注意および作業方法



カッティングブレードが非常に鋭利で、高速で作動するため、本パワーツールを操作するときは特別な安全上の注意事項を遵守してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者によるパワーツールの操作は許可されていません - ただし、監督者の指示の下で 16 歳以上の未成年者が作業を行う場合は例外です。

子供、動物、見物人を機械に近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないよう配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用

者が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー使用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー使用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

本機は、生垣、灌木、低木、茂みなどの剪定専用です。

上記以外の使用は禁止されており、事故や本機の損傷を招くおそれがあります。パワーツールにはいかなる改造も加えないでください。事故が生じたり、本機が損傷したりするおそれがあります。

STIHL 社が本パワーツールに使用することを明確に承認したか、仕様が同等のカuttingブレードとアクセサリだけを使用してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリの使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

負傷する危険性が高まるおそれがあるため、いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

木々、茂み、機械の可動部品にからまるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。靴底が滑らず、頑強な作りの靴を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

「個人」用のイヤープロテクター(例えばイヤーマフ)を着用してください。



耐性素材(革など)でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬

必ずエンジンを切ってください。

たとえ短距離であっても、機械を持ち運ぶときは常にブレードガード(鞘)を装着してください。

パワーツールはハンドルを持って運搬してください - Cuttingブレードを後ろ側に向けてください。機械の高温になっている部分、特にマフラーやギアハウジングには触れないでください - **火傷をするおそれがあります!**

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐためにパワーツールを適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。





ヒンジグリップ式燃料タンクキャップ(差し込みロック)は定位置に差し込み、止まるまで回してからヒンジグリップを下げてください。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります!**

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します - 本取扱説明書の関連する章を参照してください:

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷を発見した場合は、エンジンを始動しないでください - **火災が起きる危険があります!** サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- スライドコントロールは  の方向に自由に移動し、通常運転位置の  に戻る必要があります I
- スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーがスムーズに作動するか点検します - スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります!**
- カuttingブレードが適切に固定され、安全な作動状態(汚れが付着せず、目立てされ、反っていない状態)に保たれ、適正に装着され、STIHL 樹脂溶剤(潤滑剤)が十分に吹き付けられているか確認します。
- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください
- ハンドルは乾いた清潔な状態(オイルや汚れが付着していない状態)に保ちます。これは、機械を安全に操作するために重要です。

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください!

2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

パワーツールを屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。

パワーツールをしっかりと保持します。エンジンが始動すると動き出すおそれがあるため、カuttingブレードを地面や他のあらゆる障害物に接触させないください。

本パワーツールは、一人で操作するように設計されています。作業エリアには、始動時であっても第三者を入れないください。

カuttingアタッチメントに触れないください - **ケガをする危険があります!**

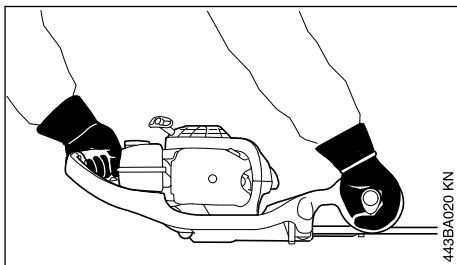
エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

スロットルトリガーを放しても、カuttingブレードはしばらく作動し続ける点に注意してください - フライホイール効果です!

エンジンのアイドルリングを点検します: エンジンのアイドルリング中 - スロットルトリガーを放した状態では、カuttingブレードは静止していません。

2.6 機械の保持と操作


必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。



左手でコントロールハンドルを、右手でカッターハンドルを持ちます。ハンドルをすべての指でしっかりと握ります。

常に足場が安定しているか確認し、必ずカuttingブレードが身体から離れるように本機を保持します。

2.7 作業時

差し迫った危険や緊急の場合、速やかにエンジンを停止します - スライドコントロールを  の方向に動かします。

作業エリア内に見物人がいないことを確認します。

常にカuttingブレードに注意します - 生垣の見えない部分は切断しないでください。

背の高い生垣の切断時には特に注意し、生垣の反対側を確認してから作業を開始してください。

アイドルリングが正常か点検し、スロットトリガーを放したときにカッティングブレードが停止するか確認します。アイドルリング中もカッティングブレードが作動する場合は、サービス店に修理を依頼してください。定期的にアイドル回転数の設定を点検し、修正してください。

スロットトリガーを放しても、カッティングブレードはしばらく作動し続ける点に注意してください - **フライホイール効果です!**

作業中はギアボックスが高温になります。**火傷を負う危険を低減するために、ギアボックスハウジングに触れないでください!**

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば濡れた面、雪や水で覆われた面、斜面、凸凹のある地面。

落下した枝、低木、切りくずを取り除きます。

障害物に注意します: 樹木の切り株や根。 **つまづく危険があります!**

バランスと安定した足場を確保してください。

2.7.1 高所で作業する場合:

- 常にリフトバケットから作業します。
- はしごや枝に乗っている間は、絶対に本機を使用しないでください
- 足場が不安定な場所では絶対に作業しないでください。
- 本機は絶対に片手で使用しないでください

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声(叫び声、警笛等)が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください - **事故が起こるおそれがあります!**

冷静かつ慎重に作業を行ってください - 日中の視界が十分なき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないように配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があり、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガス

を吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります!**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」を参照)。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。

生垣や作業エリアにカッティングブレードを損傷するものがないか点検します:

- 石、岩、金属片等の固い障害物を取り除きます。
- 砂や砂利がカッティングブレードの間に挟まらないよう注意します - 特に、地面近くで作業をするときは注意が必要です。
- ワイヤフェンスと隣接する生垣を切断するときは、カッティングブレードをワイヤーに接触させないでください。

電線に触れないでください - 電線は絶対に切断しないでください - **感電する危険があります!**



エンジン作動中は、カッティングブレードに触れないでください。カッティングブレードに物が挟まったときは、直ちにエンジンを切ってから障害物の除去を試みてください - **そうしないと、ケガをする危険があります!**

カッティングブレードが固着したままスロットルを開くと、負荷が増し、エンジン回転数が低下します。クラッチが滑り続けるため、重要部品(クラッチ、ハウジングのプラスチック部品等)が過熱して損傷します - その結果、エンジンのアイドルリング中にカッティングブレードが作動して**ケガをする危険があります!**

生垣の埃や汚れが激しい場合は、時々、カッティングブレードにSTIHL樹脂溶剤を吹き付けながら切断作業を行ってください。それによりブレードの摩擦や、樹液や粉塵の蓄積による悪影響を大幅に軽減することができます。

作業中に発生する粉塵は、健康に害を及ぼすおそれがあります。多量の粉塵が発生する場所では、防塵マスクを着用してください。

機械から離れる前に：必ずエンジンを切ってください。

作業中はカッティングブレードを定期的かつ頻繁に点検し、切断動作に目立った変化が生じたときは直ちに点検します：

- エンジンを切ります。
- カッティングブレードが完全に停止するまで待ちます。
- 状態と締め付け具合を点検し、細かな亀裂の有無を確認します。
- カッティングブレードが鋭利な状態か確認します。

常にエンジンやマフラーから草木の切れ端、木片、葉、および余分な潤滑剤を取り除きます - **火災が発生するおそれがあります！**

2.8 作業後

必ず機械から粉塵や泥を取り除きます - その際は、グリース溶剤を使用しないでください。

カッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けます。エンジンを短時間作動させると、溶剤が均等に行き渡ります。

2.9 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.10 整備と修理

定期的には本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。

い。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故およびパワーツールの損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、スチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するため、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。 - 例外:キャブレターおよびアイドルリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターを作動しないでください。火花を抑制できずに**火災が発生する可能性があります**。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないが定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください - 「技術仕様」の項を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

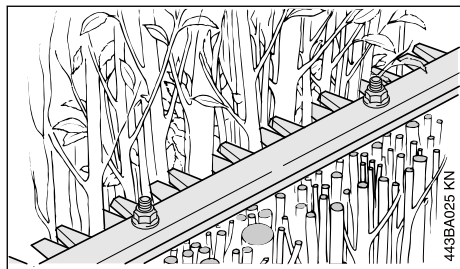
火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部品を点検してください。

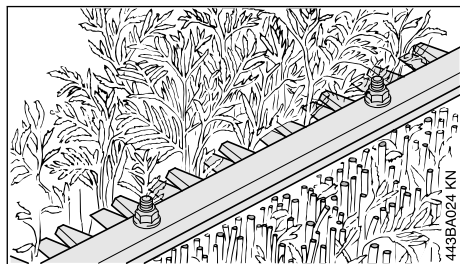
3 本機の使い方

3.1 HS 87 R



HS 87 R は太い幹や枝の生垣や低木の切断用に設計されています。

3.2 HS 87 T



HS 87 T は、細い枝の生垣や低木の剪定や刈込み用に設計されています。

深い茂みの生垣を切断するために HS 87 R ヘッジトリマーを使用します。

3.3 切断時期

生垣の切断に関する国と市町村の規則と規制を遵守してください。

他の人が通常休んでいる時間帯は、パワーツールを使用しないでください。

3.4 切断の順序

最初に、太い枝を剪定ばさみまたはチェンソーで切断します。

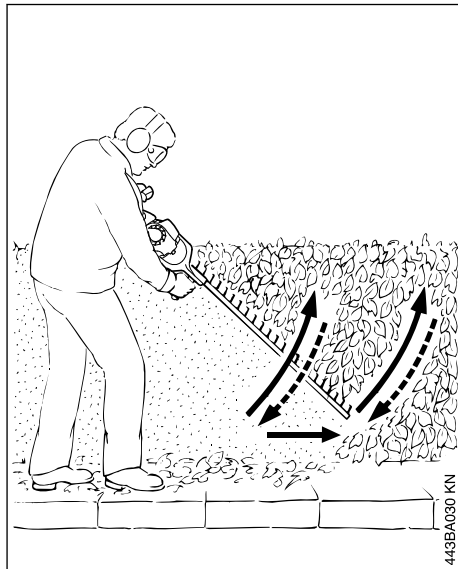
最初に生垣の両端を、次に上側を切断します。

3.5 廃棄

切断した枝などは、家庭用ゴミ箱と一緒に捨てないでください - 堆肥にする可能性があります！

3.6 作業方法

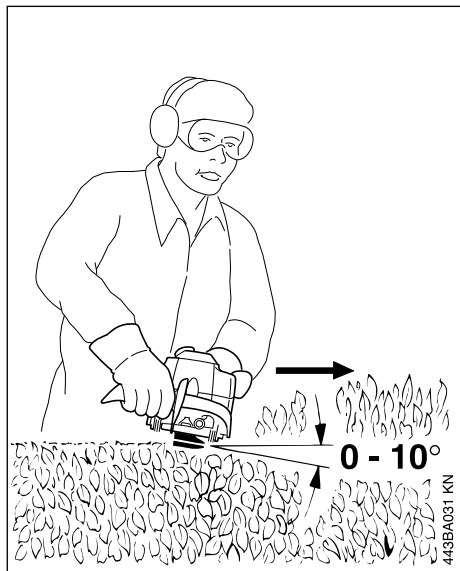
3.6.1 垂直切断



カッティングブレードを下から上へ円弧状に振り、ブレードの先端を下げて生垣に沿って移動し、再び上へ向けて円弧状に振ります。

頭上の切断作業は、どの作業位置でも疲れます。事故が起きないように、そのような位置の作業は短時間に限ってください。

3.6.2 水平切断



ヘッジトリマーを水平に振る際に、カッターバーを0~10°の角度に保持します。

切断した枝が地面に落ちるように、カッピングブレードを生垣の外側にに向けて弓形に振ります。

カッピングブレードにオプションのキャッチャープレートを装着すると、生垣の切断が簡単になります。

4 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。

警告

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

4.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

4.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

4.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

4.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

4.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

4.2.4 例

ガソリン量 リットル	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50 リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

4.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

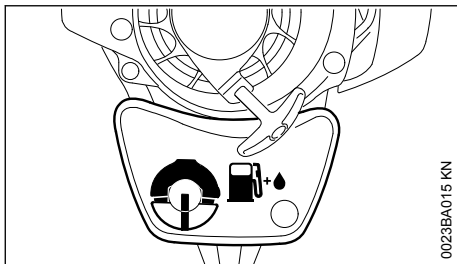
▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

5 給油

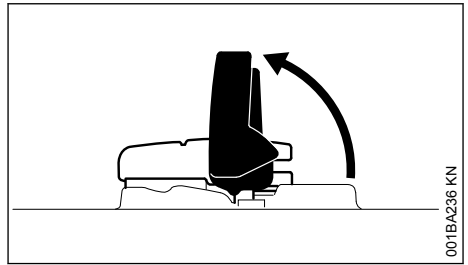


5.1 準備

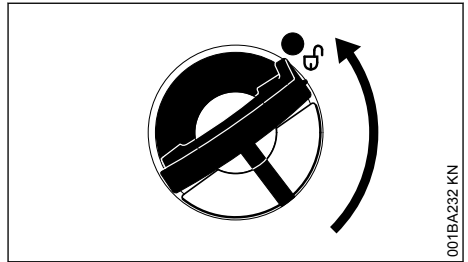


- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、タンクキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。

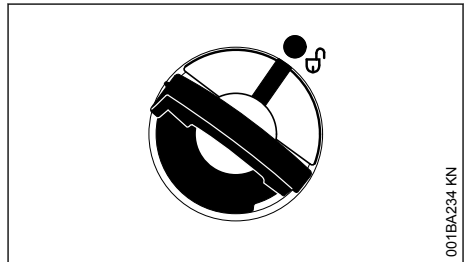
5.2 キャップの開け方



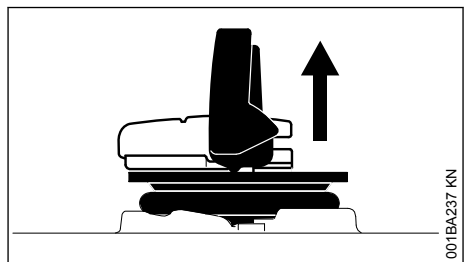
- ▶ グリップを垂直位置まで起こします。



- ▶ キャップを反時計回りに回します (約 1/4 回転)。



タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



- ▶ タンクキャップを取り外します。

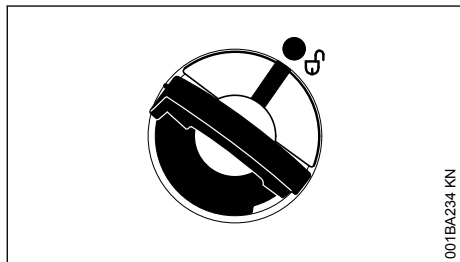
5.3 燃料の給油

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

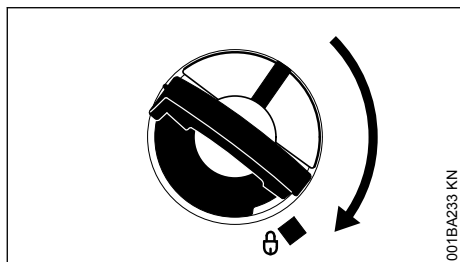
▶ 燃料タンクに給油します。

5.4 キャップの閉め方

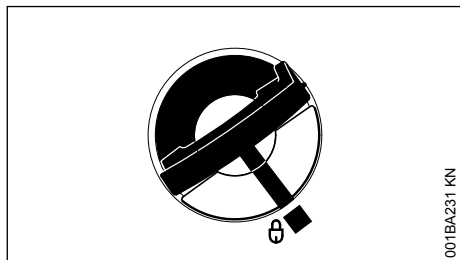


グリップを垂直位置に合わせます：

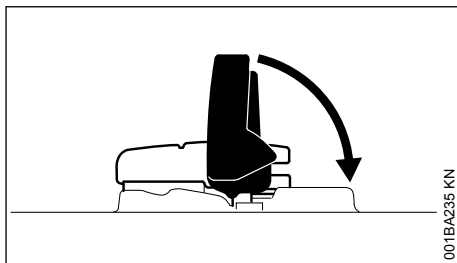
- ▶ キャップを取り付けます - タンク キャップと燃料タンクのマークを合わせてください。
- ▶ キャップを止まるまで押し下げます。



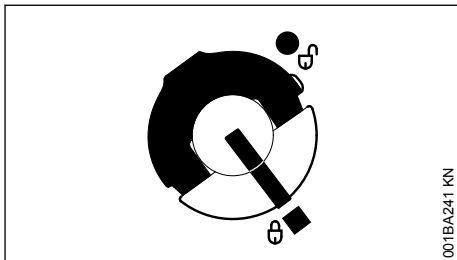
- ▶ キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



タンクキャップと燃料タンクのマークが合いません。



- ▶ グリップを倒します。

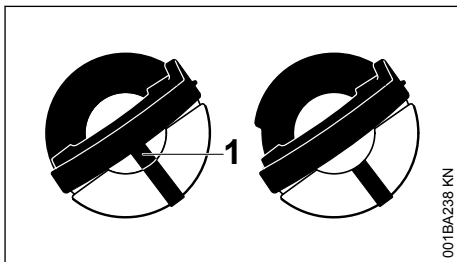


タンクキャップがロックされます。

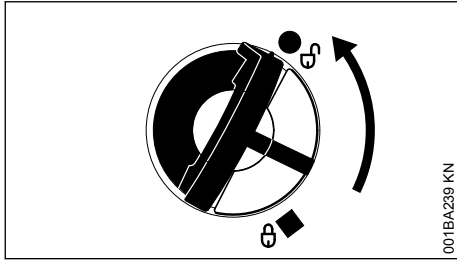
5.5 タンクキャップを燃料タンク開口部にロックできない場合

キャップ下部が上部に対してねじれています。

- ▶ 燃料タンクからキャップを外し、上から見て点検します。



- 左側： キャップ下部がねじれています - 内側マーク (1) が外側マークに合っています。
- 右側： 適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下にあります。外側マークとは合っていません。

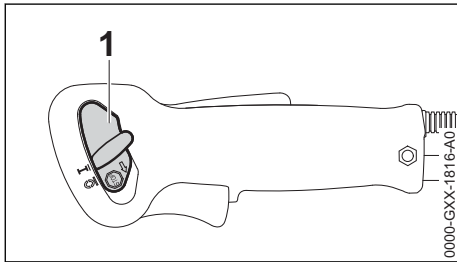


001BA239 KN

- ▶ キャップを開口部に取り付け、フィラーネックにかみ合うまでキャップを反時計回りに回します。
- ▶ キャップをさらに反時計回りに回します(約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- ▶ キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。

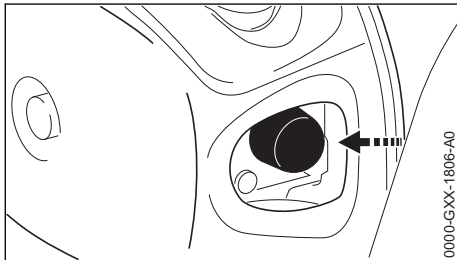
6 エンジンの始動と停止

- ▶ 安全注意事項を守ってください。「使用上の注意および作業方法」を参照してください。



0000-GXX-1816-A0

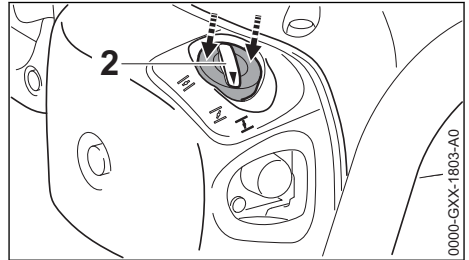
スライドコントロール (1) は、通常運転位置 I にあります。



0000-GXX-1806-A0

- ▶ 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

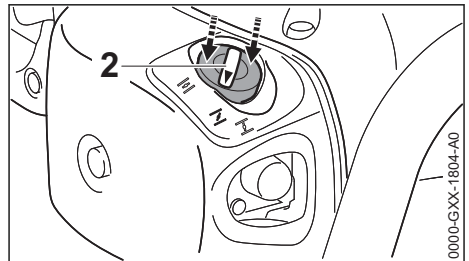
冷機エンジン (冷機スタート)



0000-GXX-1803-A0

- ▶ チョークノブ (2) の外側リング (矢印) を押し下げ、**I** の位置に合わせます。

暖機エンジン (暖機スタート)

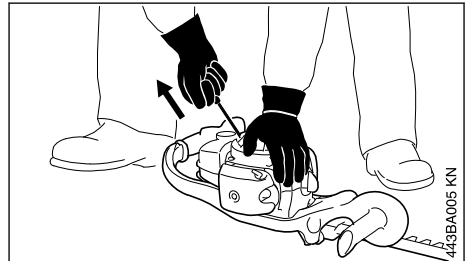


0000-GXX-1804-A0

- ▶ チョークノブ (2) の外側リング (矢印) を押し下げ、**II** の位置に合わせます。

エンジン始動後、完全に暖機されていない場合もこの位置を使用します。

6.1 始動操作



443BA005 KN

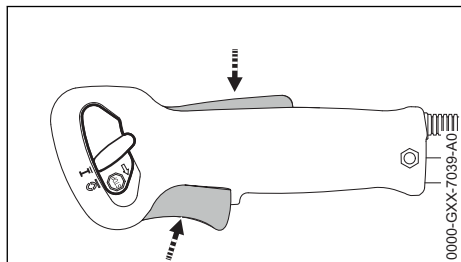
- ▶ 本機を地面に置きます。
- ▶ ブレード鞘を取り外します。カッティングブレードが地面やその他の障害物と接触していないか確認します。
- ▶ 足場が安全で、安定しているか確認します。
- ▶ 左手をファンハウジングに当てて機械を確実におさえ、地面に押し付けます。
- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。
- ▶ スターターグリップをゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら素早く勢い良く引っ張ります。

注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - 切れるおそれがあります。

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

6.2 エンジンがかかったらすぐに



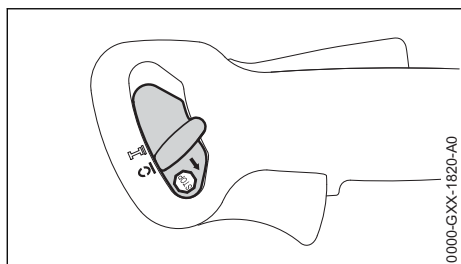
- ▶ スロットルトリガーロックアウトを押し下げ、スロットルを開きます - チョークノブが運転位置 **II** に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。

警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時には、カッティングアタッチメントは作動してはなりません。

これで機械の使用準備が完了しました。

6.3 エンジンの停止



- ▶ 停止スイッチを **0** の方向に動かします - 放すとスライドコントロールは通常運転位置 **I** に戻ります。

6.4 始動に関するその他の注意事項

6.4.1 外気温が非常に低い場合 - エンジンを暖機します

- エンジンがかかったらすぐに：
- ▶ エンジンを始動スロットル位置で約 10 秒間、運転します。
 - ▶ スロットルを全開にします - スライドコントロールが通常運転位置 **III** まで戻り、エンジンはアイドリング回転に戻ります。

エンジンが暖機スタート位置 **II** で始動しない

- ▶ チョークノブを **II** の位置に動かし、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンがかからない場合

- ▶ すべての設定が正しいか確認します。
- ▶ 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

エンジンが燃料を吸い込みすぎている

- ▶ チョークノブの外側リング (矢印) を押し下げ、**III** の位置に合わせます - エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

燃料タンクが完全に空になった場合

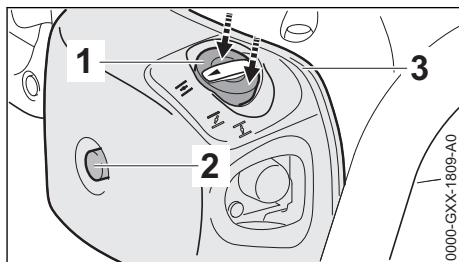
- ▶ 再給油後、ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、手動燃料ポンプを最低 5 回押ししてください。
- ▶ チョークノブをエンジン温度に合った位置に合わせます。
- ▶ エンジンを再始動します。

7 エアフィルターの掃除

機械には、フェルト製またはペーパー製のフィルターエレメントが装備されています。

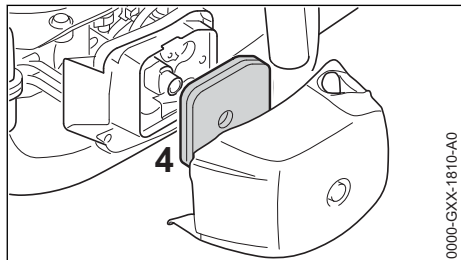
7.1 エンジン出力が著しく低下した場合

7.1.1 フェルトフィルター

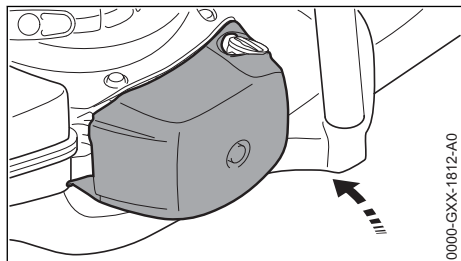


- ▶ スクリュー (2) を取り外します。

- ▶ チョークノブ (1) の外側リング (矢印) を押し下げ、**三** の位置に合わせます。
- ▶ チョークノブ (1) の外側リング (矢印) を押し下ろしたまま保持します。
- ▶ フィルターカバー (3) を取り外します。

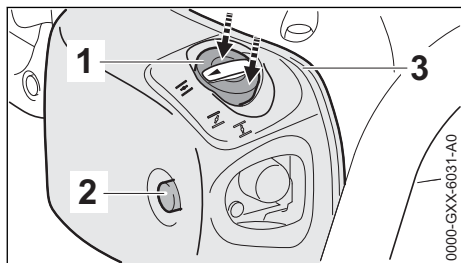


- ▶ フィルター周囲の浮いた汚れを取り除きます。
- ▶ フィルターエレメント (4) を取り外します。
- ▶ 新しいフィルターエレメントを取り付けます。一時的な措置として、手の平で叩くか、圧縮空気を送り、汚れを落とすことができます。洗浄はしないでください。
- ▶ フィルターエレメントを取り付けます。



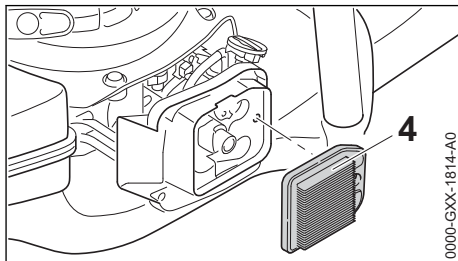
- ▶ チョークノブの外側リングを押し下げ、フィルターカバーを取り付けます。
- ▶ スクリューを差し込み、しっかりと締め付けます。

7.1.2 ペーパーフィルター

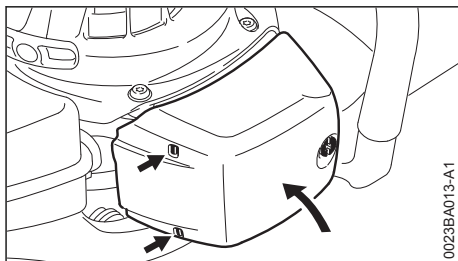


- ▶ スクリュー (2) を取り外します。
- ▶ チョークノブ (1) の外側リング (矢印) を押し下げ、**三** の位置に合わせます。
- ▶ チョークノブ (1) の外側リング (矢印) を押し下ろしたまま保持します。

- ▶ フィルターカバー (3) を取り外します。
- ▶ フィルター周囲とフィルターカバー内部から浮いた汚れを取り除きます。



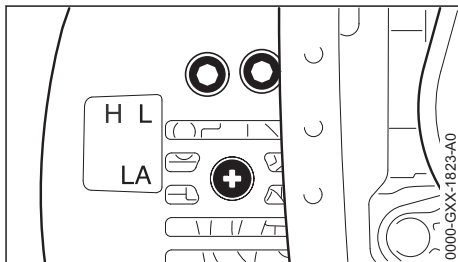
- ▶ フィルターエレメント (4) を取り外し、点検します - 汚れや損傷があれば、交換します。
- ▶ フィルターをフィルターハウジングに取り付けます。



- ▶ フィルターカバーをフィルターハウジングの左側に合わせ、右に回します - 2 個の突起 (矢印) をフィルターカバー開口部にかみ合わせてください。
- ▶ チョークノブの外側リングを押し下げ、フィルターカバーを閉めます。
- ▶ スクリューを差し込み、しっかりと締め付けます。

8 キャブレターの調整

8.1 基本情報



この設定により大抵の作業状況下で混合気が最適化されます。

8.2 準備

- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ エアフィルターを点検し、必要に応じて掃除するか、交換します。
- ▶ カuttingブレードを点検し（清潔で自由に動き、反っていない状態が確認し）、必要に応じて掃除します。

8.3 アイドリング回転数の調整

アイドルリング回転中にエンジンがストールする

- ▶ エンジンを約3分間、暖機します。
- ▶ エンジンが円滑に作動するまでアイドルリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆっくりと回します - Cuttingブレードが動いてはいけません。

アイドルリング回転中にCuttingブレードも一緒に回転する場合

- ▶ Cuttingブレードが停止するまでアイドルリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計方向に回した後、さらに1/2から3/4回転、同じ方向に回します。



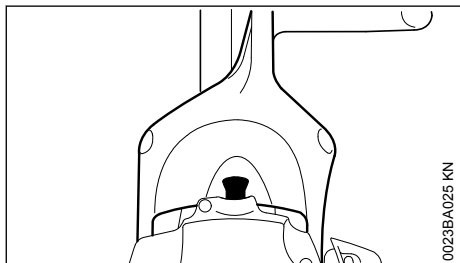
警告

エンジンのアイドルリング回転時にCuttingブレードが動き続ける場合、サービス店にパワーツールの点検と修理を依頼してください。

9 スパーク プラグ

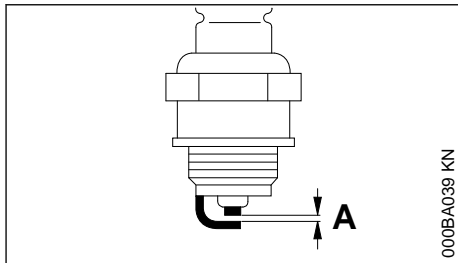
- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- ▶ 約100時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

9.1 スパークプラグの取り外し



- ▶ スパークプラグターミナルを抜き取ります。
- ▶ スパークプラグを外します。

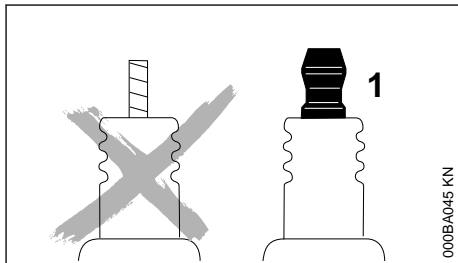
9.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルター汚れ
- 劣悪な使用環境



警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

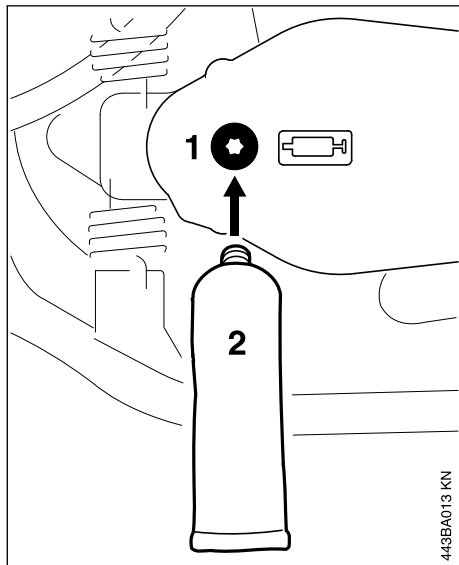
9.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグを手で取り付け、締め付けます
- ▶ コンビネーションレンチでスパークプラグを締め付けます
- ▶ スパークプラグターミナルをしっかりとスパークプラグに押し込みます

10 ギャーボックスの注油



ブレードドライブ ギャーにヘッジ トリマー用 スチール ギャー グリース (特殊アクセサリ) を塗布します。



約 25 運転時間ごとに以下の作業を実施します :

- ▶ 機械底面のギャーハウジングからスクリュープラグ (1) を取り外します。
- ▶ グリースチューブ (2) を注入口に差し込みます。
- ▶ 最高 5g のグリースを、ギャーボックスに注入します。

注記

ギャーボックスいっぱいに入れないでください。

- ▶ グリースチューブ (2) を取り外します。
- ▶ スクリュープラグを取り付け、しっかりと締め付けます。

11 機械の保管

機械を約 30 日以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合: 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。
- ▶ カuttingブレードを洗浄し、状態を確認してから STIHL 樹脂溶剤を吹き付けてください。
- ▶ ブレード鞘を取り付けます。
- ▶ 特にシリンダーフィンやエアフィルターに注意して、機械を丁寧に清掃してください。
- ▶ 機械を乾燥した安全な場所で保管してください。(子供など) 承認されていない人が使用しないように保護してください。

12 目立ての注意事項

切れ味や切れ具合が悪くなって、ブレードが頻繁に枝に挟まる場合: Cuttingブレードを再目立てします。

Cuttingブレードは、整備工場の目立て機を使用してサービス店で目立てされることをお勧めします。スチールではスチール サービス店をお勧めします。

クロスカット平ヤスリもご使用いただけます。目立てやすりを所定の角度で握ります (「技術仕様」を参照)。

- ▶ カッター先端のみを目立てします - Cuttingブレードの尖っていない突き出た部分や Cuttingブレードガード (「主要構成部品」を参照) にやすりをかけないでください
- ▶ 常に Cutting エッジに向かって目立てします。
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときは、ヤスリをブレードから離します。
- ▶ 砥石で Cutting エッジのバリを取り除きます。
- ▶ 削る量は、できるだけ少なくしてください。
- ▶ 目立て後、Cuttingブレードに残ったヤスリやグラインダーの切削粉を除いて、スチール樹脂溶剤を吹き付けてください。

注記

切れ味が悪いカッティングブレードや傷んでいるカッティングブレードが装着されている機械で、作業しないでください。機械の過負荷の原因となり、切断状態も十分でなくなることがあります。

13 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		高負荷作業	日毎は作業終了後または燃料給油後	毎週	毎月	12ヵ月毎	故障時	損傷時	必要な場合
機械本体	目視検査(状態と漏れ)	X	X						
	清掃		X						
コントロールハンドル	作動点検	X	X						
エアフィルター(フェルト)	清掃						X		X
	交換							X	
エアフィルター(ペーパー)	清掃						X		X
	交換					X		X	
手動燃料ポンプ	点検	X							
	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾							X	
燃料タンク内のピックアップボディ(フィルター)	点検はサービス店に依頼してください ¹⁾						X		
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾					X		X	X
燃料タンク	清掃						X		X
キャブレター	アイドルリング調整の点検	X	X						
	アイドルリング再調整								X
スパークプラグ	電極ギャップの再調整						X		
	100 運転時間毎に交換								
冷却風吸入部	目視検査		X						
	清掃								X
すべての手の届くスクリユーとナット(調整スクリユーを除く)	締め直し								X
防振装置	目視検査	X							
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾						X	X	
カッティングブレード	清掃		X						
	目立て								X
	目視検査	X							

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長いか、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		高 速 切 削 作 業	日 毎 は た た ま ま 作 業 終 了 後	時 給 給 給 給 給	毎 週	毎 月	12 カ 月 毎	故 障 時	時 損 傷	合 要 な 場 合
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾								X	
	調整可能なブレード隙間の調整 ²⁾									X
ギアボックスの潤滑	約 25 運転時間ごとに点検および補充します									
安全ラベル	交換								X	
¹⁾ STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。 ²⁾ 市場により異なるが、オプションとして入手可能										

14 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

14.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

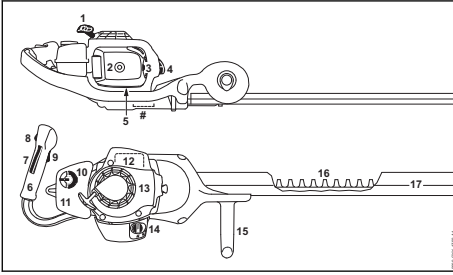
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

14.2 磨耗部品

刈払機の部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- カutting ブレード
- クラッチ
- フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- リvind スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

15 主要構成部品



- 1 スターターグリップ
 - 2 フィルターカバー
 - 3 手動燃料ポンプ
 - 4 スパークプラグターミナル
 - 5 キャブレター調整スクリュー
 - 6 コントロールハンドル
 - 7 スロットルトリガーロックアウト
 - 8 スライドコントロール
 - 9 スロットルトリガー
 - 10 燃料タンクキャップ
 - 11 燃料タンク
 - 12 マフラー
 - 13 ファンハウジング
 - 14 チョークレバー
 - 15 右ハンドル
 - 16 カuttingブレード
 - 17 ブレード鞘
- # 機械番号

16 技術仕様

16.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	22.7 cm ³
シリンダー径:	34 mm
ピストンストローク:	25 mm
ISO 7293 に準拠した出力:	0,7 kW (1 PS), 8500 rpm 時
アイドル回転数:	2800 rpm
回転数制御範囲 (公称値):	9300 rpm

16.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネットイグニッション

スパークプラグ (雑音防止): NGK CMR6H, Bosch USR 4 AC, STIHL ZK C 10

電極ギャップ: 0.5 mm

16.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量: 460 cm³ (0.46 l)

16.4 重量

カuttingデバイス付き一式、燃料なし、ブレード鞘なし

16.4.1 HS 87 T

刃渡り 750 mm:	5.2 kg
刃渡り 1000 mm:	5.5 kg

16.4.2 HS 87 R

刃渡り 750 mm:	5.5 kg
刃渡り 750 mm (キャッチャープレート付き、およびチップガード付き、ブレード間隔調整可能):	5.9 kg

16.5 カuttingブレード

水平目立て角度: 45°

16.6 騒音・振動数値

音響値・振動値は、アイドル回転数と最大定格回転数の比率 1 : 4 で測定したものです。

振動に関する事業者への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

16.6.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

HS 87 T

刃渡り 750 mm:	97 dB(A)
刃渡り 1000 mm:	97 dB(A)

HS 87 R

刃渡り 750 mm:	96 dB(A)
-------------	----------

16.6.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル L_{weq}

HS 87 T

刃渡り 750 mm:	106 dB(A)
刃渡り 1000 mm:	106 dB(A)

HS 87 R

刃渡り 750 mm:	105 dB(A)
-------------	-----------

16.6.3 ISO 22867 に準拠した振動値 a_{hv,eq} (チップガードなし)

HS 87 T

	左ハンドル	右ハンドル
刃渡り 750 mm:	2.2 m/s ²	2.6 m/s ²
刃渡り 1000 mm:	2.5 m/s ²	3.0 m/s ²

HS 87 R

	左ハンドル	右ハンドル
刃渡り 750 mm:	3.1 m/s ²	3.0 m/s ²

16.6.4 ISO°22867 に準拠した振動値 a_{hν,eq} (チップガードあり)

HS 87 T

	左ハンドル	右ハンドル
刃渡り 750 mm:	2.3 m/s ²	2.2 m/s ²
刃渡り 1000 mm:	2.4 m/s ²	2.9 m/s ²

HS 87 R

	左ハンドル	右ハンドル
刃渡り 750 mm:	3.3 m/s ²	2.9 m/s ²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルついて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

16.7 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

16.8 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

17 整備と修理


本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

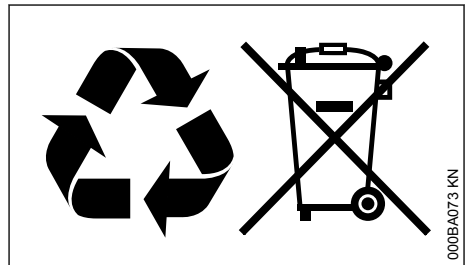
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

18 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

19 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル：
製造ブランド：
タイプ：

ヘッジトリマー
STIHL
HS 87 T
HS 87 R

シリアル番号：
排気量：

4237
22.7 cm³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版

に準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 10517、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 11094 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

HS 87 T : 102 dB(A)
HS 87 R : 101 dB(A)

音響出力レベル保証値

HS 87 T : 104 dB(A)
HS 87 R : 103 dB(A)

技術文書の保管 :

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



20 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル : ヘッジトリマー
製造ブランド : STIHL
タイプ : HS 87 T
HS 87 R
シリアル番号 : 4237
排気量 : 22.7 cm³

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001

の関連する条項に適合しており、製造日時点で有効であった以下の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 10517、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルの測定値および保証値は、ISO 11094 規格を適用の下、英国規則「Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001, Schedule 8」に準拠して算出しています。

音響出力レベル測定値

HS 87 T : 102 dB(A)
HS 87 R : 101 dB(A)

音響出力レベル保証値

HS 87 T : 104 dB(A)
HS 87 R : 103 dB(A)

技術文書の保管 :

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



21 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-449-4321-C



0458-449-4321-C